# 女子青年界

第十五卷

五月號



（毎月一回一日發行）

大正五年七月號

# 女子青年

# 界目次

第十五卷 第五號

# 日本基督教女子青年會

## 本部委員及幹事

委員長 井深花子　書記 三谷民子
副委員長 岡見惠子　會計 井上友子

員

辻松子　ミセスフェールプス
長谷川喜多子　上代淑子
鈴木歌子　ミス・トリストラム
山田千代子　長尾ナミ子
ミセス・クック　ミス・ウエスト
松田道子　星野愛子
廣岡淺子　城戸順子
ミス・ゲーンス　志立タキ子
津田梅子　ミス・デントン
ミセス・クレメント　松岡鎮江
ミセス・フィッシャー　野村美智子
藤田貞子　井上レツ子
佐伯小糸子　ミス・ツール
總幹事 河井道子　幹事兼書記 ミス・ガンター
同 ミス・マシウ

女子青年界
第十六巻 五月號
大正七年五月一日發行

會説

# 終始一貫の力

河井道子

花の時候を目懸けて、外國より日本へ渡來する人々は、東京に充滿して居ります。彼等のうち特に宗敎・敎育方面に注意して居る人も少なくありません此等の人々は隨分多く青年會を訪問せられます。兩三日以前にウエルスレー、カレヂの某敎授が、敎育談をされた際に、同氏の謂はるゝ事には、終始一貫する精神は基督敎の贈物かしら、何故と云へば兎角始めあつて終りがないと云ふ傾向を東洋人に見る事が多いと云ふ事を聽いて居る、これはどうであるかと尋ねられました。それを又説明して云はるるに、例へば始め有意の青年であつて孜々として勉勵して志成る曉には、どうも以前の比例には進歩する事がなくなつて、何か成功するとそれを益々續けて尙偉大なる成功を見んと努力する者が少ない樣で、小功に安んずると云ふ傾向があるではないかしら、婦人にしても折角外國にある時は、將來爲す所ある如き者でも、歸國後撚が戾つてしまふか、又は極僅な進歩で滿足して居ると云ふ事があり勝ではなからうか、これは國民性と云ふよりは、宗敎の力如何によるものであるかと思はれる。それで宗敎の觀念の普

及しない處には、愈々進んで事を完成すると云ふ精神が乏しくはないかしら、そうすると基督敎の力がどの位日本に及んで居るかを知る事も出來ると云ふ說を靜かに聽いて、同氏に意見一致したと云ふ迄ではなかつたが、成程と反省せられたのであります。熟々考へて見るに日本は地勢風土の關係よりして、確かに變り易い性質を人々に與へて居る事は皆承知して居る處です。堅忍不拔の精神は全體から云ふと北方人に多くあつて暖國の者の特性ではありませんその代り又南方の詩的優雅の所は北方に於て見る事の出來ない物がございます、而し兎も角も氣の替り易い處は日本人の特徵でございます。先輩の中にはこの特徵は全く地勢に基する樣に話さるゝ方もあります。例へば汽車で東海道線を通過するなら、五分間として同じ景色を見る事は殆んどなくして、山、川、谷、海と交るがはる其所に現出し、又樹木も形をかへ、彩色も異ふと云ふ樣に、變化が如何にも多いので、之が國民性に變化を好む樣にさせて居る、又之が物に飽き安い點をも示して居ると解かれた事を聽いた事があります。變化を好む事の善惡を此所で論ずるのではありませんが、私共の注意する事は始めあつて終りがなく新しい事を好むが爲、何事をも全うせずして之を放棄する我々の缺點は何處迄も改めなければならぬと思ひます。其所で此米國の先生が評された樣にどうしても一事を貫徹する事は、只吾々の氣力、又精神とか云ふものにのみ訴へて出來る事とは思へません。元來諺にも「岩もを通す桑の弓」とか「精神一到何事か成らざらん」とか申しますが吾々は自分の身の膽力、氣力と云ひますものに限りがあつて其丈でやつて行かうとする時には、失敗に終る事が多いと信じます、故に之を吾々の信念に依つて貫くのであります。昔名刀を鑄た人々は、只に己れの魂をそれに入れ込むと云ふのでなく神佛に祈願して己れ以上の力を借りて、其超自然の靈をその刀に入れ込むと云ふ精神でしたものだと、傳へて居ります。其樣に多くの仕事の出來て居る其

裏には、神佛に願をかけるとか、財寶を喜捨する、鳥居を建立する、兎も角も信仰の力を現はして居ります、況して眞の神を信仰して居る所の者が、一事を爲すに當つて、神の力に依つてなすと云ふ考のない筈はありますまい。神が「吾は始めなり終りなり」と仰せられた事が聖書に記してあります。又ポーロの云ひますに、「吾は爾曹のうちによき業を始め給ひし者（神）之を全うし給ふ事を確信す」と云ふて居ります。若し神が吾々に何かをさせ給ふとして、之に與らせ給ふたならば、必ず之を又完成する事に助を下さると云ふ事を信ずる事が出來たならば、其所に人生以上の力が加はつて、どの樣な難事でもそれを成就する事が出來るのでありませう。少さい事でも私共は何かよい事を始めたら、之を成し終ると云ふ決心が必要であります、もとより或一つの事を志しても、それが自分に不適當の事と解れば、之を捨てる方が神の御心であります、而し其の不適當と云ふ理由でなく、唯むづかしいと云ふて、之を放棄する事があるならば、今度他の事に着手しても又そのむづかしい所に達した時に之を捨て、轉々と巡廻して虻蜂取らずに終るのであります、この性癖が直らないと、信仰生活を全うするなどは思ひもよらぬ事であります。眞の神を信じ、周圍と調子を合して行ける間はよいが、信者であつても此處に信仰上一つの衝動が起り苦痛を感ずる場合、信仰を捨てると云ふ人が隨分多いのであります。終り迄忍ぶものは救はるゝ事を得んと基督は約束されましたので、この終り迄と云ふ事は餘程考へねばなりません、死に至る迄忠信なれとは、宗教丈の事ではありません、自分の職務、責任、主義などは死に至る迄忠實にせねばなりませんが此等を決行せんには、どうしても神の力が身に降らなければ、出來るものとは思はれませぬ、それで死に至る迄忠信と云ふ人ならば、決して小なる成功に滿足する者ではありません、學問をすればするに從つて謙遜し、尙々奧義に達せんと勤め實業界に入れば、只富を得ん事にのみ齷齪して、之

に滿足せず、それを以て高き方に進んで、神の善且忠なる僕にならうと益々働く樣になり、社會事業に關係するなら僅の慈善事業位で滿足せず、進んで如何に奉仕をなす可きかと云ふ事に心を持ち、位置、德望高まるに從つて、如何に善用してよきかと苦心する樣になりませう。

或田舍路を車で走つて居りましたら、車夫が、どうも私共の市は繁昌する氣遣がないと云ふ、その理由を聽くと此市の頭の上つて居るものは皆親讓りの財產を鼻にかけて、働く事は少しもしないのみならず、飲んだり、食つたり、勝手な所で遊んだりして威張つて居るから、繁昌する事がない、又土地の者もこれを許して何某さんは金があるから遊んで居られる、吾々は金がないから働かねばならぬと云ふ樣な所だから、工業も商業も擧りません、と斯く云ふた、彼は實に賢い車夫で、彼の云ふた通り何もしない者が空威張をして居る處に繁榮のある筈がありますまい。終り迄忍ぶ者、終り迄忠信なれ善き業を始めし者之を終り迄爲し遂げ給ふと云ふ事は、何時の時代でもどの樣な地位にも當塡まるものであります若き姉妹方が今や新しき地に、境遇に學校に行かれた事は、善き事を神が始め給ふたのでありますから之を全うし給ふ神がある事を信じて如何なる困難が參りましても、進んでこれを取り、又如何に都合よく行きましても、それで滿足せず愈々その眞に達する樣に向上して頂き度ものと存じます。何事も神が中心にて、神が始めなり終りなりと仰せられた事を以て、神の力に依つて難所を切り拔け神の與へ給ふた冕を受くる樣に勤めて頂き度いものであります。

「爾持つ所の物を堅く保ちて、爾冕を人に奪はるゝ事なかれ。」

（明治天皇）

花になり實になる見れば草も木も
すべて務のある世なりけり

何事も思ふが儘にならざるが
却りて人の身の爲にこそ

# 講演

## 心配を治する道

美羅

人間誰にも心を煩はす事情は澤山にあります。大なる悲劇もあり、毎日押來る面倒な難事もあり、失望、失敗、病氣、不平と様々の煩悶がありまして、此等は何れも皆家庭の平和や、自身の安心を破る源となります。聖書には度々教へて、信徒は憂慮ことのない様に命じてあります。エスは非常な困苦厄難に遭遇でしたが、其中に從容として些細の心配もされざりし事は我等の記憶すべき事であります。然らば、かく心を惱ます事に對して、如何にせば慮憂ふ事がなくなるでしよう。心配事は起るのは當然の事でありますから、其は無感になれとは云ふ方が間違つて居ります。しかし其出來事に負けて仕舞ひ、心配して心配して日を送らなくてはならぬと云ふ譯も又ありません。諺に「空の鳥が我等の頭上を飛ぶ事は禁ずる事は出來ないでも、彼等が我々の毛髪に巣を作る事は禁じ能ふ」と申ます。其と同じに心配事が、我等の胸中に巣を作つて宿る様にさせぬ力は各自にあります。故に如何なる苦痛、困難、悲愁でも我々の心の平和を破らせぬ様にするには何か方法がありましようか、確にあります。其は凡てを神に持出し此を訴へ、神に御任せする信仰であります。神は我等の父である限りは、この様に大な心配事でも神には大き過ぎる事なく、又小な心配事でも神には小すぎる事はありません。「何事をも思ひ煩ふ勿

れ唯毎事に祈禱をし懇求をし且感謝して已が求る所を神に告よ」。かく申すと、或人は曰うに、神は御存知であるから別に又告る必要もあるまいと。我々は神の許の自由に出で、何事でも神と御相談をするやうになるには自分から告げる必要があります。併し是は只祈るとて祈の態度だけしたとて無駄です、恰も時計が破損したらば、時計屋に其儘なほしに持つて行くやうに、神に持つて行くのであります。よく子供が糸を縺かせてあちこち引張まわして、終に切つて仕舞はなくてはならぬ樣な事をします、其と同樣で私共も僅の心煩があれば自分で色々思ひ煩はないで、神の許に持ちゆき其縺れを上手に解て貰ふが上策であります。處が神に御任せすると祈り尚心配して居る者が澤山あります。祈つたとて、神に心から御任せするのでないから、平和などは來るものではありません。我等がベストをなした後は神に任せて待つ必要があります。時計屋に渡した時計は直るまで待つ必要があります。其が我等の責任で、渡すや否や、どうか〱と攻め立てるものでありません。況して靈の修繕には時間がかゝります。神のよしと思召す時期を待つべきで、彼の計畫されし花の蕾を勝手に開らいて、みる樣な眞似は、さけなくてはなりません。かく成し得る者には思ひ煩ふ事がなくなり、いかなる悲み、失望、不如意の事があつても泰然として、エスの如くに甘受することができましよう。心配は百病の源、神を信じ神に任すは百病を根治します。

### 地方讀者の方々に謹告

## 振替用紙を
## 「次號の附錄に」

振替用紙を雜誌の附錄にする事は暫らく法律によつて禁ぜられて居ましたが今回差支ないといふ事に規則が改まりましたから次號の本誌に添へる事に致します就ては既に前金の切れた方若しくは近く切れる方は此の用紙でお拂込下さるやうお願ひ申します。

# 品性を築くには

米國大使　モーリス

學校の教育を一先づ終へて、自分が卒業した時にはこれから初まるのだと云はれたが、全く其通りで學校はほんの準備で、人生其物が教育である。人生なる教育の最も適當に教へる事は、些々たる事に心をゆるすなと言ふ事である、些々たる事を以て世を渡る意味ではないが、其最終の目的に於ては、品性を向上せしめる。而して品性なるものは些々なる事を仕遂げる事よりして起る。

自分が幼少の時讀んだ話で、心に刻まれて居る一つの繪がある。それは女性の文豪で最も優ぐれた人として私の私淑して居る、ジョーヂ、エリオットの書いたロモラである。彼のテイトーの品性が如何に變つたかを考へると學ぶ可き所が多くある。彼は昔コンスタンテイノープルで孤兒の乞食であつたが市の或學者が不憫に思つて、養つて仕上げたのであつた。樣子と云ひ顏立と云ひ、人に好れる質であつた當時ロ市はトルコ人の爲に蹂躪され、家族離散した家が多く、テイトーも遂に逃げてイタリヤのフローレンスに來た。教育もあり風采もよかつたので、立派な位置にとり上げられた。或時乘馬して、市を巡廻して居つた際、奴隷の一群に出遇つた。彼等はトルコ人の爲にロ市で奴隷にされた人々であつた。何知らず一群に目を向けると、豈圖らんや、自分を養つてくれた恩人の父が、見る甲斐もなき憐れな風をして居つたので、自分の恩人とは知りながら己が位置を顧みたる彼はその大恩人を裏切り、其の奴隷に

顏を横向けて通り過ぎてしまつた。斯の如き品性の下賤な人間は、言葉にも筆にも盡されない。テイトーが奴隷に遇ひ其の內の一人が、自分の大恩人と知つた時、其恩人を見捨て裏切つたと云ふ事は、一時の出來心からして顏を、横に向けたのではない數年前より恩を忘れんとして居つた結果がなしたので、決して一時の出來心ではなかつた。彼が自分の恩人と別れてからも、若し恩人を探し出さんと云ふ心持があるならば、手紙を書いて尋ねてもどうしてもよいのに、そんな事は些々たる事であると否定してしまつたのが、彼の品性をして最も賤しむ可き、人道をはづれたるものとなしたのである。

煉瓦造の大層高樓も、一個づゝの小さき煉瓦を、積み上げて初めて出來たものである。世の中の偉人も初めは皆我々共と同じでありながら、些々たる事を忠實に積み上げた爲それが終に偉人をなしたのである。小さき事にも忠實であればこそ、品性も向上され、人間も築き上げられるのである。皆さんが學校を出られ、社會に立たれては、氣にさわる事もあらうし、悲しむ可き事も多くあらうと思ふが、此等は些々たる事であるとして、遁がさずに一つ〱を處理し、切り拔けて行く事が必要である、苦しい事つらい事が積み重なつて、人間の品性も向上されるのであると私は考へる。

（以上は米國大使モーリス氏が、英學塾卒業式に於いてされし講演の大要なり。文責在記者）

## 婦人矯風會大會

四月二日午前九時より三日夜迄玉造ウヰルミナ女學校講堂に於て開催、全國五十六箇處の支部並に十六箇所の青年部の各代員約八十名及傍聽者二百餘名の出席者ありたり。三日午後一時より出席者全部は、天王寺公會堂に於ける近畿大會主催の少年少女大會に出席し同會を終へるや一同步して飛田遊廓地を一周し西洋墓地に趣きて、同所を眼下に見下し乍ら公娼廢止記念祈禱會を開く。「帝國議事堂內の食堂に於て酒を使用するを禁ずる事」「遊廓營業者の住宅と營業所とを分離せしむる事」以上二題は滿場一致を以て原案通り可決す。

# 學校は一生涯附きもの

農法學博士　新渡戸稲造

學校を卒業して世の中に出ると、何日も其學校が自分に附添ふて居る。例へば吾輩は札幌農學校を三十幾年以前に卒業したが、今でも若し何か不良い事をすると「新渡戸は札幌出身だ」と云ひ、稀に善良い事でもすると「彼は札幌出身だから」とて學校が褒められる。其で母校の名聲如何は出身者に依るのであるから、お互に注意が必要と思ふ。

其處で一體學校を出る場合になつて、扨て學校で得たもので感謝するものは何かと尋ねられると皆返事が違ふ事であらう。先頃一女學校にゆき今回卒業する處女方に一々訊ねてみた、「一體學校で得たものゝ中何が一番尊いか」と。共同心を養ふたとか、祈禱の意味を知つたとか、色々の答があつたが、其中に一人極く若かそうな顔をしていた學生が、俄に泣き出した。後になり詫て云ふには「先生私は誠に失禮を致しました、其席で申上やうと存知ましたが如何にも堪まらなくなりまして、甚麼失禮を致しましたので御赦し下さい。實は私の母が若い時に苦しい經驗を致しまして、其故に私を此學校に入れて呉れました、母は學問もなく早婚致しました處、父方の親類縁者が母の事を無學だ、教育がない女だとて嗤ひましたので、母は其がため悲しい恥しい月日を送りました。其で母は私に是非とも女學校の教育を受させやうとして、色々の苦痛を忍んでくれました其御陰で今日は斯く卒業が出來る事になりました。先生が御尋ねなさいました御問に對して、私は何が一

番難有いか尊いかわかりません、只此學校に這入り幾分でも勉强が出來たと云ふ其事が、難有く、感謝することで御座います。其樣に思ひましたので、自然泣けたりいたしまして御免下さい」。

此言葉を聽いて、實に尤であると同情し、彼女から活きた學問をしたので吾輩の方から御禮を云ふたのである。よく熟考て見ると、我々は確に學校敎育を受けた事其自身に對して深く感謝をせねばならぬ特に英文學でも味ふ事の出來た學生等は常に感謝をして、其に依り他の者の知らざる別天地を覦ふのであるから、其賜を無にしてはならぬ、而して其を味ふことの出來る樣にして貰ふた學校等に對しては、感恩の念を厚からしめるのが當然である。只に英學と云はず何科でもあれ、其を專攻し得たならば、其特典を難有く思ひ、何日までも一生涯、母校との親しい關係は斷切るものでない事を記憶して、校名に光輝を添へたいものである。

是と同時に女學校でも卒業して、新に高等の學問や藝術に進む者は、其幸運を感じ、自身のかく幸福なる其裏面には、尊い淸い犧牲があるのを忘れずに眞面目に、熱心に斯道に進む決心を要するし、又昔の小學校や女學校にて敎育をして下されたる先生方を忘れてはならぬと思ふ。（在文責記者）

□處女會中央部

昨年設立のまゝ今日に及びたる處女會中央部は愈々四月十三日午後二時より上野公園精養軒にて發會式を擧げ左の十五名を招待せり（イロハ順）

鳩山春子、穗積松子、嘉悅孝子、吉岡彌生
棚橋絢子、山脇房子、福島四郎、近藤憲子
國府種德、跡見花蹊、淺野作子、天野藤男
岸澄子、三輪田眞佐子、下田歌子、

尙當日は理事より會の主旨を述べ新渡戸博士の講演及來賓の祝辭等ありて來會者に立食の饗應ありたり。

# 信仰に包まるゝ父子

一教友

田川大吉郎氏は、眞面目なる基督者とし、又政界の一勇士として、世間に知られた方であります。一昨年同氏の發表された意見が、政府の忌憚にふれ、所謂筆の禍で、五ヶ月の入牢宣告を受けられた事も世人のよく知つて居る事であります。判決後一年餘は身體は自由であられしも其間に御家族中三女が大患に罹られ、御夫人が重病になつて、本年二月遂に永眠された如き、同情をよすべき經驗をされましたが、其間田川氏及小供方の信仰は實に敬服すべきものであります。此四月中旬彼は服役さるゝ事になりましたが、其前教友相共に祈禱し奬勵し合ひ、又田川氏自身の公の挨拶もありましたが、基督信徒ならでは到底味ふ可らざる實驗でありました。普通の人情よりせば、到底忍ぶ可らざる如き此の場合、同氏は常に神の力を感じて、從容として、其うちに勇氣と感謝と希望の光に包まれてあつた事は、教友の皆認めた處であります、私共ポーロの信仰告白を思ひ今日も之を實驗する次第であります。「且われら凡ての事に於て己神の役者の如く行ひて己の義を人に顯せり即ち多の忍耐にも患難にも窮乏にも困苦にも、責打にも獄に入にも擾亂の時にも勤勞にも睡らざるにも食ざるにも、貞潔ことゝ知識と恒忍と仁慈と聖靈と僞なきの愛と、眞の道と神の能と左右に在ところの義の武具を用ゐ、また榮耀、羞辱、惡名、令聞に由て己の義を人に顯せり、人を惑す者に似たれども眞實人に知れざるに似たれども人に知れ死たる者

に似たれども生るもの責を受るに似たれども殺されず、憂るに似たれども常に喜び貧きに似たれども多の人を富し何も有ざるに似たれども凡の物を有り」

（哥林多後書六章四節――十節）

今回の事件其物は此處で論ず可きものではありません。只田川氏の御子女又教友の同氏に對する心持の一端を此處に紹介し度と思ひます。

「今日はこの家（田川氏宅）に來りお慰めをする積りであつたが却て慰められ奬勵されて行くのである」

「色々雜用や人々のおしかけて來る事の出來ぬ如何にも自由なる所（語句）にて田川家は神と親しく交はられるのである」

「英國などの立憲の歴史を繙けば、眞の愛國士は政府の忌憚にふれ、獄中に投ぜられた事は實に多い。而し彼等に由つて英國の光が輝いたのである。神の御心のある所、我等今知る事が出來ないけれど、田川氏を通じて大に働き給ふ事を信仰するのである」

「基督教は十字架の教であると云ふが、實は其眞意を解するものは今回の出來事に對して、滿腔の同情を呈すると共に、又非常なる希望を認むるのである」

「母亡く父在さざる七人の愛兒を田川氏が考へらるゝと、如何ばかりの苦痛を感ぜられる事であらうか而し神彼等を守り、又我々教友は人間の力の及ぶ限りは、御世話を致す事である故安心して行く可き處に行て頂き度い」

以上は祈禱會の一席に於て、數人の者の語つた事に過ぎませんが、此等は多くの同情者の代表の言葉と見ても宜しいと思ひます。斯る言葉を未信者が聞いたら不思議に思ふでありませう。此處に何も持たざるに似たれども、凡ての物を持つと云ふ意味が現れて居ります。同氏自身よりも凡てを感謝にとつて人を恨まず、他を羨まず、政府の處置は實に寛大である故、我國も我を愛して居るのである、自分は實に光に包まれて居る氣分がして、只感謝であると謙遜なる態度で常に語られました、只同氏に限らず神を信仰する凡の者は、詮方盡くれども望を失はぬと

云ふ、大なる惠を受けて居ります、それで肉體が如何に制限されても、心の自由其活動は、誰も之を壓迫する事は出來ません。エスが死を前に控へて弟子に告別の際申された其言葉は「爾曹世にありては、患難を受けん、然れど懼るゝ勿れ、我すでに世に勝てり」絶えず信徒の凱旋を促して居ります。私共殊に婦人は已が主義を固く保ち、家庭に於ける、或は社會に於ける色々の壓迫が降り來りましても、矢張り之に打ち勝つ樣な力を持ち度い者であります。「我等をして世に勝たしむるものは我等の信なり」とある樣に、どうしても眞の神を信仰するのでなければ敗北に終るは、當然の事であります。

田川氏には二男五女ありまして、長女芳野孃はお茶の水高等女學校を卒業されし後、病勝ちなる母上を看護し、傍ら弟妹を母上に代つて養育されて居ります、今や兩親共肉體に於ては、子供等と共に居られませんが、同孃が親の代りを勤めて、元氣よく弟妹を勵まし、一家を整理し勇氣と希望とを持つて居らるゝ事も、又信仰あるが故と存じます。今や若き女子が只已の事のみに苦心し、遊惰に貴重の時間を費し、有害なる唯物主義に捕はれて居るこの際、田川孃の如き美しき處女あつて、周圍を美化される事は感服に堪えません、是等につけても信仰は日常生活にどれほど大切であるかを明に示して居ります。

# 母君

田川芳野

昨年の十一月二十一日御危篤の電話に接し、さてはと夢中で鎌倉に駈け着けました折、母上は御目に一杯の涙をたゝへられて「あなたの顏はとてももう見られないと思つて居たのに、逢へて嬉しい事、よつちやん、わたしが何んなに爲らうとも、神樣の愛を信じて、決して歎かないで頂戴、あまり悲しんで病氣にでも爲られてはと、わたしは、心配でならな

い、幼い人達は、皆あなたを頼つて居るのですからね」と仰しやつた御言葉は、今も尚鮮かに私の耳に響いて居ります。

眠られる二三日前には、看護婦に向ひ「わたしはもう早くらくにして頂きたいと思ふ事が、度々ありますけれど、子供の事を考へますと、どの樣な苦みにも耐へて、快くなつてやらねばならないと思ひます」と申された由を承りました。

最後の時にも仰しやいました樣に、子供は神樣からのお預りものとのお心持は、片時も母上の御頭を去らなかつた樣に思ひます。私達にも「お前」と呼び、「何々をおし」と仰しやつた事は一度も御座いませんでした。いつも勿體ない程丁寧な御言葉で、勿體ない程大事にして下さいました。御病中どんなにお苦しい時でも、若し氷枕など取り換へて差上げますと「どうも有難う」と必らず缺かさずにお禮を仰しやいました。

「身體が不健全だと靈までも不健全になる」と度々申され「こんな意久地の無い母に育てられねばならない子供は可愛相です、濟まない〳〵」と絶えず氣にして居られた樣に思ひます、けれども宅が番町から小石川に移つたのは、文二が大塚の學校に入るやうに爲つたゝめ、殊に母上の熱心な主張からでございましたし、靜枝が入學の當初には、内氣ではにかんで、困るだらうとて、一月の間、一日も缺かさずに、學校に通つて、樣子を見てやつて下さいました

私共の學校では、敎生の先生が度々代られるから案じられると、深く心配して下さいましたし、植村先生の御話の中にもありました通り、私共の讀む小說等にまで色々注意をして下さいました、父上が時折お友達との宴會の上のお話を、食事の時に遊ばしたり、又信一が、一寸した冗談を言ふたり致しました折々にも、皆の靈性上の淸い發達のためを思ふて心配なさつた程で御座いました。

それのみか肉體上の事にも一通りならぬ御注意を遊ばし、子供の兩眼の間に靑筋が出ましたり、又あ

くびをしたり致しますと、屹度、見遁さずに、早く豫防をするやうにして下さいました。皆、次々に大病に罹りまして、どれ程母上の御命を縮め上げたか測り知られぬと思ひますが、私共が揃ふて今日からして居りますのは、皆其行屆いた御介抱のお蔭と心から有り難く存じて居ります、父上の洋行のお留守に私は大病に罹りましたが、母上の青山博士にお願ひしたいと申された時は、誰も賛成せず、それ程の重體ではないとお笑ひに爲つたのでございました、けれども母上は「重體に爲つてからは、博士に來ていたゞいても間に合ひません、早くいゝ方法を見附け出して頂きたいから、博士に來ていたゞくのです」と仰しやつて、其お考へを貫いて下さいました

私は、此等の事を思ひ起しますたびに、母上の永い御病中に何のお手當も懸命にして上げず、母上の少しでも心配を減らしてやらうと、自分の苦しさを忍んで耐へて下さる御心持を察しも上げず、浮かり心なく過しました事を、何とお詫の申上げやうもなく、心苦しく思ふ事でございます。

御眼の御不自由のため、本はあまり多くお讀みに爲りませんでしたけれど、驚く程新しい考へを持つて、若い者の心を善く汲んで教へていたゞきました「これからの婦人は、生花や茶の湯で滿足して居る樣ではいけません。家庭内の細かい仕事は出來るだけ簡單に始末をする樣に工夫をして、一つのしつかりした職業をも持つて行く樣でなければ」などおつしやつた事も、一度や二度ではございませんでした

女中の上にも御心をお用ゐになり、女中も家族の一人であると思召して、一生懸命に教育しやうと爲さつたため、御身體に御無理の出來た事も度々で有つたらうと思ひます、取わけ正直一圖な母上は、女中達が、前後の辨へも無く分りきつた詐りを申しますのを、ひどく悲しまれて、その爲にお祈りなさつた事など、まるで自分の子供に對するやうな御同情でございました。

母上の御臨終は、私共を急に天に近づけたものと

思ひます、あの時までは、どうともして、母上を一日も永く地上にお留め申上げたいと祈つて居りましたけれど、あの時の御模様を拜してからは、苦しい御病床に永くお留め申すよりは、早く麗はしい常世の國に榮へある御身と爲られた方が相應しかつたと感じる樣になりました、母上の御幸福に爲られますためには、私共の今日の悲しさ、淋しさ、心細さはよく忍ばねばならないと思ふ樣に爲りました。田川の家に入られてから二十三年私共の母と呼び、子と呼ばれた年月は短う御座いましたけれど、斯程迄に愛情の深い清い美しい母上を與へて下さいました神樣の御恩を深く覺えて今後を勵み、常に感謝の中に渡らねばならないと存じて居ります。

(田川いくよ夫人御永眠の際、親戚友人等よりの書面を集め印刷とされしを知人に配付されし其の中に此處に掲ぐる芳野姉の所感ありたれば同樣のゆるしを得て此處に轉載す)

# 神經衰弱と素人療法

醫學士　樫田十次郎

神經衰弱と云ふ病氣は、世間が文明になるに從つて隨分多くなる。玆にはこの病氣の症狀は如何なるものかと云ふ事は略して、如何なる場合に餘計に起るか、如何にして素人療法をしてよいか、重いのは醫者に任すとして極輕いものに就てお話し度い。

**□神經衰弱は氣の持ち樣か**

神經衰弱と云ふ病氣は氣の持ち樣で起るもので、氣をとり直せば治する樣に世間一般考へて居る、意久地がないから、くよ〳〵して居るから罹るので、氣を張つて、元氣よくすれば直ると、よく年とつた

人が若い人達に云ふが、氣を轉ずることが出來、元氣をとり直す前提が出來るなら、極輕いので容易に直るが、少し病氣らしいのは氣を轉ずる事や元氣を恢復する事が既に出來ない、この點よりして世の父兄が子弟を誤る事が多くある。重い患者に元氣がないから、そんな病氣が起るなどゝ子弟の頭の疲れ居るにも係らず、監督の行屆いた家では益々勉强さして、益々病を重らせる事が多い、殊に中學、女學校あたりを卒業して以上の高等の學校に入らんとする時などは、少し學力の足らぬ者には非常に勉强させる、斯る時に出來ない人なら勿論監督して勉强を旨くする樣に導くのはよいが既に頭の疲れて居る人に過重の勉强をさせると、病は重くなるのみである。又人から强いられなくも、頭が惡くなつて居りながら、自分に氣が附かずに、近頃勉强しても覺えられぬと、只時間のみ多く費して益々頭を惡くする傾がある。斯る時には、父兄或は監督者が氣を附けて、頭の休まる樣に休息させる事を注意せねばならぬ。それでないと本人は夢中に勉强して遂に救ふ可らざる狀態に陷る。

### □興味を以てする勉强は害にならぬ

勉强を餘計にする事が惡い樣に聞えるが、一方ではそうでない、自發的に興味を以て勉强する時には多少餘計にやつてもそう／＼頭を惡くするものでない、勞働、事務、商業總てがそうで興味を持つてする時には、精神作用で頭を惡くする事が少ない、而し人から强ひらるゝ場合、或は衣食住の爲め嫌やでも應でも働く場合は其處に興味がないから、同じ働きでも頭や體を害する。

### □睡眠が一番大事

仕事をし或は勉强するに、如何に休息をとり、頭や體を休む可きかと云ふに、一番大切なのは睡眠を十分にする事である。睡眠の時間は健康體或は若い人は通常七時間でよい、而しこれは時間の長短では云へぬよく眠れば七時間より短かくともよい、又眠りが淺くて夢を絶へず見る睡眠なら、七時間以上も

眠らねば十分の恢復を得ない、尙神經衰弱に罹つて居る人は其れ以上に眠らねばならぬ。

### □體の故障より起る場合もある

是迄お話したのは、頭を疲らすから來る樣にお話したが、尙其他身體に故障があると、よく神經衰弱になる、呼吸器即ち肺、肺尖加答兒からも起る、胃の惡い人、腸の惡い人にも起る、此の他糖尿病のある人、鼻や眼の惡い人或は腸に寄生蟲のある爲に、貧血せる人にも起る、體に故障のある事から起る樣の人は、原因をとりのぞく事が出來るなら、其原因をのぞくがよい、又女は月の病のある場合には、感情に變化が起り易い、此の時に頭を非常に刺戟させる事があつたり、過重の負擔の爲にそれを動機として神經衰弱に罹り易い事が多い。

### □如何にして直すか

不幸にしてこの病氣に罹つたら、どうして直すか原因の取り去られるものは十分にとり去り、其他普通の人なら睡眠を十分にする事を心掛ける、睡眠をよくする事は中々むづかしい。醫者の藥によらねば眠られぬ人もあるが、輕いうちは藥なしに眠らす事が出來る、其方法としては眠る前に風呂に入る事である、ぬるい湯にはいつて洗ふ事より暖まるのを目的にする方がよい、而し人によると熱い湯にはいつた方がよく眠れる人もあるし、就寢の直ぐ前に湯に入ると却つて眠を妨げる人もあるが、斯る人は一時間以前にはいつてもよい、風呂の後水をあびるのはよいか惡いかと度々問はれるが、水をあびる事は心臟の惡くない限りは、水をあびるのもよい、殊に如露の樣に水の出る處に女なら頸筋から脊背にかけてあびるのがよい。

### □刺戟性の食物は藥物である

睡眠を妨げるものとしては茶である、上等の茶、珈琲は睡眠を妨げる故、眠られぬ人は午後三時頃より後は飲まぬ方がよい。又食物として凡ての香料即ち山葵、胡椒、芥子の如き刺戟性の香料は餘り用ゐぬ方がよい。

## □運動の可否

世間では運動をする事に就てよく誤るが、輕症のうちには多く運動してもよいが、重くなるに從つて自分でする運動は少なくし、電氣とかマッサージの如く受動的の方法をとる方がよい。自分でする運動はどの位の程度がよいか、之は其の日の氣分にもよるが、運動をして疲勞を感ぜざる程度に於てする。

## □轉地療法はよきか

多少金のある人は、直ぐに轉地と云ひ出すが、輕い時代には轉地もよいが、重い人には轉地が惡い事もある、殊に一家になつて居る人が、自分の家庭から離れて、一人ぽつねんと旅館などに居ると、却て惡くする事がある、斯る時には一家族伴つて行くか親しい友達とか身寄りの者とかと一緒に行くと好果がある、又よく眠られる時期には土地を變へるのは效能があるが通常多くの人は、家が替り土地が變ると、眠を妨げるから眠られぬ人は轉地をしない方がよい、若し轉地するなら眠れる樣になつてからする方がよい。殊に恢復期の轉地はよい、それを間違へて惡い盛りに轉地するは不利益である。

## □轉地は山か海か

多くの患者には、山又は山間の溫泉地が適するが稀には、海岸の方が好果を得る人もある。

# 露國近況（續き）

露婦人談
雄山百合子譯

私の働いて居りました事務所に居りました給仕が私の物を手傳つて持つて行き私を汽車まで見送らふと約束してくれました。十月二十九日に彼は砲彈を侵して參りましたそして私が乘らふとして居りました特別列車はペテログラードを發するのであるといふ事を確な筋で聞き知つたと申して參りました。それで私共は出掛けました。私共は汽車に乘り込みました、然かし此處へ來る途中發砲は段々烈しくなつて參りましたし私共がペトログラードの大通りであるネヴスキー街まで參りました時、彈丸が私共の電車の上を正しく飛んで居りました。私共の電車は發砲の止だのを待つて一時間程立ち止りました。發砲が少し緩んだ様に思はれますと私共の電車は全速力で通過致しました。停車場へ着いて見ますと列車の到着が遲れますので數時間待たなければなりませんでした。漸く汽車が參りました時には、乘客が群り立つて居りました、誰も誰も人を押し除けて自分が入らふと肘で押し合つて居りましたからで御座います。戰爭の樣にして私は切符によつて私が占める權利を與へられてゐた席がわかりました。然し其處には一婦人が坐つて居りまして、其人は私と同じに自分も切符を買つたのであるし私の申す番號入の切符を信じませんといつてその席を退かふとも致しませんでした。私は汽車に乘り込んで嬉しくはありまし

たが少くも十六日間立ち通しにしなければならぬかと考へると物狂はしく感じました。私共の此の話を聞きました一露國大官は私の味方をして彼の婦人が其坐席を占める權利が無い事を其婦人に了解させ様としましたが、他の無記號の切符を持つて居る人々が初めに來たものが其場處を取る權利があると申ます。遂に車掌が出て來まして番號が有效なものだと申しましたから私は自分の坐席を得るのに大變困難をしてゐると話しましたら彼は私の席に腰掛けてゐる婦人に若し彼女が直ぐ其場席を讓らなければ力づくで引きずり出すと申しました。此畏嚇が効を奏して彼女は私に席をよこしました。

私共の室に十四人入つて居ました。平時には此の樣な室は四人と定まつて居りましたので御座います其中には其れに横たはるのに一人に一ツの割で軟かい腰掛が御座りましたが、今は一脚に三人づつ腰掛けて居りました。通路には通る事も出來ぬ程群がつてゐました。私共が六日間程晝夜殆ど絶えず同じ姿勢で座つて居りました。此間中私が私の坐席から動くことの出來たのはただ二度で御座いました。そして一度も顔や手を洗ふ機が御座いませんでした。室は非常に汚なく吸ふ空氣もない程で御座いました。停車場に着きますと人々が何か食物を買ふ爲めに數分間窓を開けました、そして新鮮な空氣を得る機會と申たらそれのみで御座いました。オムスクで私の車が列車から離されて十二時間全く孤立して居りました。私が乘車以來初めて其處で私の顔や手を洗ふ機が御座いましたので私共は結構な食事を致しました、又車から澤山人が下りましたので、前よりは幾分餘地が出來ました。下にある一脚には男が二人居りますし他の一脚には子供を伴れた一婦人が居りました、上部の一つのベンチには娘が二人又一方には私の下にゐる婦人の、も一人の子供が居りました。オムスクで私共の車は兵士輸送用の貨車で編成された列車に連結されました。オムスクを發車しますと私共の列車は急速度で進み何の停車場でも殆ど停りま

せんでした。私共は少しの食物も買ふ事が出來ません。それは兵士等が列車を急がせてゐた樣に思はれました、彼等は私共の後に乘りました西比利亞急行車が私共を追ひ越ない樣にしやうと決心したらしくて、列車が長く停車場に止まることを承知しませんでした、その爲私共は豫定よりずつと早くどの停車場にも着きましたので私共の爲めに少しも食物の用意が御座いませんでした。私はこんな事を記憶して居ります、或停車場で極少量の溫いキャベツのスープが御座いました、そして旅客全體を滿足させる爲めに其スープの中へ單に水を注ぎ込みまして、皆に行渡らせました、それでも人々は其溫いスープと冷たい水との奇妙な混合物を得る丈けでも喜んで居りました。オムスク以後は私共は毎日顏を洗ふ事が出來ました、それでも洗面臺のある場所は私共がゴム靴をはきましてゞも入る事を躊躇しました位汚なふ御座いますし、洗面臺其物が汚くて見るも厭はしい程で御座いました。ペトログラードを出立しまして八日目に私共はイルクックに着きました。

浦鹽へ着きますと私は停車場の床上に寢てゐる人々を見ました。旅館や宿舍は皆いつぱいで一つの小さい隅でもすいてはゐません、幸にも私は浦港に知己が御座いましたので其方がよくして下さいました。

私が日本へ到着しました時何處でも清潔で秩序正しいので深く感じました、清潔とか秩序といふ事は私に久しく見られぬことで御座いました。東京へ着きました時には私は疲勞しきつて居りました。疲れながら私は日本女子青年會へ參りました、そこではミスマシウとミスガンターが大變御深切にして下すつて、私に十分休息の機會を與へて下さいました。御兩人の御恩は生涯忘れは致しません。又女子青年會が實に女子のため、何處にでもあることを感謝しました。

# THE HOSPITAL PHARMACY.

## GINZA. TOKYO.

*TELEPHONE SHIMBASHI 2334.*



◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎船來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎船來滋養品各種

東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

## 銀座藥品部

(舊聖路加藥品部)

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

# ギヨン婦人傳（續き）

——ウフハム氏の夫人傳に據る——

森田松榮

美しい才媛マリアに、結婚の申込をしたものは諸方からあつた。この中にギヨンといふ紳士がゐた。彼の父は政府から請負の運河の完成に成功した事業家で、卓越した才智と敏腕とを以て、一代に巨萬の富を重ね、貴族に列せられた。彼の獨息子は、父の富と地位と名聲とを相續した。

此頃のフランスの風習は、子女に少しの相談もせずに、兩親がその結婚を勝手にとりきめてしまふことが殆ど普通であつた。そして、數多の求婚者の中から、マリアの父が息女の夫として選擇したのはこのギヨン氏であつた。自分の一生にとつての、この重大な事件は、何等自分の意見や心持ちをきかれることもなしに、父とギヨン氏とに取決められた。それが何であるかも知らせられずに、差出された一通の書に彼女は署名して了つたが、それこそはもう取り返しのつかない結婚狀なのであつた。それから三月經つて、彼女が滿十六歳になつた時、結婚式を擧げた。これは一六六四年の三月廿一日であつた。

マリアは住み馴れた父母の家をはなれて、ギヨン家の人となつた。パリの社界に高い地位を占めてゐた富裕な貴族の夫人となることは、社交界の花であつた令孃にとつて、その父が思つた樣に、一見不釣合ではなかつたであらう。然し、彼女は「われは夫の家へ至りしよりはやくもこは我が爲に悲しみの家

なるべしと知りぬ。」と書いてゐる。莫大な富、高貴な位も、心に悲みあるものにとつて何の慰にならう彼女の夫は結婚當時すでに三十八歳であつた。彼は交友の間にも尊敬を得、相當の教養もあり、性質も他から害はれない場合には善良で、マリアに對しても青春の熱烈な愛はなかつたが、隨分愛はあつた。蒲柳の質で、常に看護婦が附添つてゐたくらい不健康であつた。人生の希望に輝やいてゐたマリアの終生の夫となつたのはかういふ男子であつた。その上姑は修養のない無教育の頑固な婦人で、人の心を思ひ遣るなどといふことはちつともなかつた。若い時からの狡猾と吝嗇とは、一代の富豪貴族の夫人となつても、老嫗になつても、昔とちつとも變らなかつた。滓ばかりしか心に殘つてゐない樣なこの姑は看護婦を贔負にした。この兩婦人は、いき／＼した力と熱とに滿ちてゐたうら若い花嫁をとげ／＼しく苛めた。

學識、才能、教養、信仰の點に於て、自分が育つた家庭と雲泥の相異ある新家庭に入つて廿歳も年上の虚弱な夫と、冷酷な姑と共に暮したマリアは、日光うららかな園に、輝き咲いてゐた花を、霜と嵐の冷たい野に俄に移し植えたやうなものであつた。父母の家では立派な躾けをうけ、思考、讀話の才能を自由に發揮する樣に育てられた習慣は、夫の家では一々貶された。夫の家の人達は夫人の父母の家の優雅なのを高慢だといつて嘲笑した。夫人が話をすればきつと彼らは反對するか非難するかした。夫人の流調な談話に對しては、私達に雄辯を敎へてくださるのですかといふ。夫人が意見を述べると、爭論がしたいのですかと窘なめられる。朝から晩まで殆ど罵られどほしであつたと夫人は書いてゐる。

しかし夫人は幸なるかな「境遇によつて働く所の恩寵の子」であつた。彼女は自己を責める者の美點を看逃すことはしなかつた。「私の姑は道德上の主義を缺かず、夫は幾分宗敎的情操を有ちをり、不道德には決して陷りをらず候ひき」と或僧へ其人達のこ

とを書かなければならなかつた時に認めてゐる。彼女はいつも内省を怠らなかつた。彼女の信仰の標準が高かつた丈に、彼女はおのれを責むることが急であつた。神が自分を苦しめ玉ふは神のめぐみであつた、自分は自分の虚榮と傲慢な性質に全然死んでしまふためには、神のこの攝理が必要であつたことが明きりわかる、自分は心の底に横はつてゐる邪惡を自分で絶やしつくしてしまふ力がないので、神が征服して下さつたのだと後年書いてゐる。

彼女が後年、どんなに目ざましい外國傳道をしたか、どんなに各時代に愛讀者を斷たぬ信仰上の名著をしたか、どんなに愛誦せらるる讃美歌を作つたかを、我らが知る前、彼女の家庭生活（而も日本婦人に殊に同情の出來る）をしることは無益でないかと思ふ。以下彼女の記事を略記する。

「常識と長所なきにあらざりし我姑の大なる缺點は並外れの頑固なりき。若き時にも抑制されざりしこの點は、固定して動かすべからざる特性となり、遂には誰とも住み難きまでになりぬ。姑は初より我に強き嫌惡を懷きしかば、我に最も卑しきわざを強いたりき。我は彼女の氣分の不斷の犧牲とせられたり彼女の大なるつとめは不斷に我に反對することなりき。姑は我夫にも同樣なる好ましからぬ情緒を鼓吹する術と殘忍とを有したり。例へば、人の位階身分を辨まふるが適當なる場合に、彼らは、我よりも遙に下位の人々を我上に坐せしめたり、こは屢我には痛く辛かりき。また社會上名譽ある地位につき權利の感、甚强かりし我實母が、他人より此事を聞きて（我は心して此に就ては何事も言はざりければ）地位を保ち得る氣概を缺けりとて我を叱り給ひし時は母上の爲殊に辛かりき。かく妨害せらるゝを知り玉はぬわが兩親は、わが實家を訪問することの餘りに稀なりとて呟き給ひぬ。我は實家より歸りし後厭味をいはれざることなかりき。之に深くなやむを知りし姑は絶えずわが兩親を惡し樣に我に語りぬ。我は自分の室を與へられず、常に姑の室に住ませられた

り。姑は不斷に我をその面前におき、我訪問者の前にて我を非難し辱しめたり。我夫の看護人として擇ばれし人はわれを迫めなやましたる人々の策の一切に關與しゐたり。避くるにすべなき此らをば我は大方は耐忍しをりしが時々我しらず短氣なる返事をして、長き間悔い悲む事もありぬ。外出を許さるゝ時も、從僕をつけられ、其者は我が一切の行動を報告する樣命ぜられゐたりき。

わが悲みのパンを食ひ、飮物に涙を混へ初めしは、此時なりき。されど禁め敢ざりし我涙はたゞただ非難を誘ひたるのみ。夫が我を冷遇せしは、天性よりの殘忍にはあらざりしならん。我に眞の愛情ありしを覺ゆ。されど天性短氣なりしかば、姑は之に乘じて、我に對して彼を絶えず苛ら立たしめたり。われ病みし時、夫は確になやみたり。姑と看護人との故ならざりしならば我らは倍に幸福に過したりしやも知るべからず。

かく我境遇は萬事に傷ましかりき。姑は其目的を達したり。我はわが家にありつゝ奴隷なりき。此は我性の快活を痛く害して、我は「毛を剪られたる小羊の如く」默する樣になりぬ。わが性來の思想感情の表明は我顏より失せ去りぬ。恐怖は我心に滿ち、我は抵抗する力を悉く失ひたり。專制なる女王の下に我は默然と座し殆ど愚鈍になりぬ。豫て我をば噂に知りし人々は實際に見て云ひ合ひぬ「才智さばかり豐かなりときゝしは、彫像の如くかく默然と坐しをる此人なるか。」と。わが悲みをわかつ者は一人もあらざりき。兩親に知らすることは唯新らしき苦しみを生ずるに過ぎず。われはわが悲みのうちに、助くるものなく、たゞ獨にてありき。」

---

われら四方より患難を受くれども窮せず、爲ん方つくれ共希望を失はず、責めらるれども棄てられず倒さるれども亡びず、常にイエスの死を我らの身に負ふ。これイエスの生命の我らの身にあらはれん爲なり。それ我等生ける者の常にイエスのため死に付さるゝは、イエスの生命の我らの死ぬべき肉體にあらはれん爲なり。（コリント後書四章八―十二）

# 富める婦人と貧しき病婦

北米カナダ　大呑久子

當地の戰爭の影響は御存知でありましよう、石炭の缺乏で困難した事は暖くなるに從ひ無くなりますが、食物は段々に缺乏するので、砂糖、バタ等は少量しか買ふ事が出來ません。肉類でもベイコンは可成使はぬ樣にして戰地に送ります。パンも「戰爭のパン」と申して麥の代りに他の物を入れたのを食し三月よりは、普通の白パンを得る事は全く六ケ敷なりました。毛織物は非常に騰貴致し、着類に却て絹を多く用ゆる樣になるとか噂されて居ります。斯る中にも春は爭はれぬもので、春衣の賣出に市中は追々時めく樣子が見られます。

戰時ゆゑか人心は引締り、社會學の研究は勿論、慈善や救濟には中々熱心なる運動があります。國外の事に付ては戰地や他の交戰國のため赤十字、其他の協同運動にて助け、國内に付ては既設の事業の繼續を擴張など、敬服の外ありません。

數日以前ミスカーソン教授の社會學講義に出席いたし實際哀な、救はなくてはならぬ人々の物語をきゝましたから、少し書いてみます。

ある少女が大病であると聽き、當市に行きしを幸訪問せんと出掛けました。それと思ふ割長屋に行き下から上まで昇り降りして探しましたが見當らず、隣の棟と云ふ事で隣に行き、汚い室々尋ねると、やつと一人の男を見附け、病氣の少女が居るかときくと、ハイ病人此下の室にと片言の英語で敎へてくれた。其で住居を見つけたと喜びつゝ下に下りますと

汚い狹い室、こんな處にあの子が居る筈がないと思ひつゝ室の中を覗き込む、一婦人が床の上に敷物もなく苦しそうな顏をして横たはり、幾日か掃除せぬ室の汚さはお話にならぬ程でした。それは探してゐる病人ではなかつたのですが、兎に角何かして上げる事は無いかと尋ねられると、其婦人がかすかな聲で「神樣は本當にありますか」と外國人の不充分な英語で問ひましたので、色々と神樣について話した處、其婦人云ふ樣「神はない此は地獄です私の子供を見て下さい」とのことゆゑ傍を見ると一人の子供は身體も冷めたくなり、死んで居ます、他の子供は汚い塵垢の中で泣いて居り哀れな病婦の目には涙が浮んで居る。其れから其婦人の求めて居つた神樣についで話し色々慰くさめ、肉も靈も救ふべき道を講ずる決心で別れて來ました。其午後數時間して一人の金滿家の婦人が是非遇ひたいとの事であるから訪問しますと、夫人は病氣にて床中で失禮であるが、此處へとて其室に導かれました。さへぬ顏した夫人が挨拶の後、今日は何をされたかとの問に午前中訪問した哀れな外國婦人の話をすると此夫人の頰には涙が流れ、「あゝそれ、それが私の求めて居る一の力私には神の存在、愛が解らぬので苦しんで居つたと云はれ、爰でも又前の貧しい病婦に話したと同じ救について此富にあきてゐる夫人に話しました。抑も社會事業當事者が、被助者に對する時、財寶でなく物質でなく、其人にライフ(生命)の完全なものを與へんとする事が必要であります。私は講義の後に哀れな此二人の婦人、貧富の差は大いにありますが心の貧さは同じ事、彼等が眞の救を受けられる樣祈つたので御座います。そして此二人は同じ日に暗の中から燈明を見出し得る樣手引されたミスカーソンの信仰の働きは神に感謝致しました。日本と異つた風習の國、個人主義と申しますのか、此樣な時にお隣の人が何とか世話してやつたらと私は心に思ひましたが此場合此哀れな貧乏長屋に住つて居る夫人は着物や食物をやつたつて、そんなに喜ばないでせう

暖かな同情がどんなに嬉しかつた事であらうかと存じます、どうしても進んで己が受し恵を神を知らない人の爲に分け與へねばならぬと私の心は燃え立ちました。（十月十四日）

# 大阪基督教女子青年會

## 設立の趣旨

大阪基督教女子青年會は昨大正六年秋外國婦人幹事二名と日本婦人二名に依りて其の創立に着手し、有志青年女子を集めて聖書の研究及び英語教授等をなす傍ら、或は交友に努め或は體育の增進をはかり除々に青年女子の改善進歩のため盡力し來れり。然りと雖、多事多望なる此の大都會に於ける幾十萬の青年女子をしてその針路を誤らしめず、意義ある人生の行路をたどらしめんには前記少數の働き人の力のみに委し置くべきにあらず、尚ほ又當青年會をして眞に大阪に於ける使命を果さしめんとせば必然當地に於ける篤志の諸兄姉の同情に訴へざるべからず於玆乎本年三月『大阪基督教女子青年會』を組織し内外人約三十名を擧げて委員となし、之より活動を開始せんとす。願はくば當市に於ける幾十萬の青年女子の爲に一個の燈明臺たらん事を期して起てる本會の微衷を容れ、更に本會事業の爲特別の御同情を寄せられん事を切望して止まず。

創立委員（イロハ順）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 廣岡淺子 | 委員 | 岡田榮子 |
| 副委員長 | 石神八重子 | | 吉田わさ子 |
| 同 | 大塚常子 | | 柳原ふく子 |
| 委員 | 林歌子 | | ミス、マカワン |
| | ミス、ハード | | 松井蔦子 |
| | 西野貞子 | | 正田郁子 |
| | 星野須磨子 | | ミス、アレキサンダー |
| | ミス、トリストラム | | 荒木幸子 |
| | 安東しん子 | | ミス、ウキクレー |

淺井やす子　　佐々木たみ子
善積　君惠　　阪部とみ子
高安すゑ子　　齋藤よし子
中路ちか子　　木村はま子
中江合百子　　ミセス、スコット
內池よね子

## 大阪基督敎女子青年會大會

司會者　西野貞子

日時　大正七年四月廿七日(土)午後二時

場所　天王寺公會堂

一　奏樂（ピアノ）

二　讃美歌（二百八十番）　會衆一同

三　聖書朗讀（可十〇十三—十六・徒十二〇一・路十〇廿七、太十一〇廿五、廿六・廿八—三十）　佐々木たみ子

四　祈禱　司會者

五　開會の辭　同

六　讃美コーラス　有志者

七　講演　女子靑年會本部幹事　河井道子

八　合唱　外人有志者

九　講演　廣岡淺子

十　祈禱　同

十一　讃美コーラス　三女學校有志者

閉會

## 聯合軍慰問婦人後援會

此度の歐洲大戰爭に際し、我國は夙に起つて、大義名分の明なる聯合軍に加擔し、青島の役、地中海の巡羅などに、種々其分を盡して參りました。然るに先頃より萬國青年會は、英米佛共に極めて大なる規模を以て、軍隊慰問事業を計畫し、出征兵士の身體の慰勞と、精神の保護のために、戰線に近く到るところに、或は天幕を張り、或はバラク式の建物を造りて、これが休憩、慰問に努力して居ります。是

に因りて我國の青年會も亦立つて遙かに戰線にある戰士を慰藉せんとの美擧を企てられました。この事端なくも天聽に達して、即時
天皇皇后兩陛下より金壹萬圓の御下賜金を拜領するに至りました。就ては私共も亦
國母陛下の御心を奉體して、東京各婦人團體女學校など、皆力を勠せ步調を同うして、此れが後援として、聊か貢獻するところ有りたいと思ひます。

此の慰問事業の經費は第一期豫算金拾萬圓のところ、其內壹萬圓は御下賜金、貳萬圓は青年會より、其他の七萬圓の中、金壹萬圓だけを婦人の手にて集めて獻げたい考へです。

それが爲五月一日を以て、慰問デーとし發起人賛助員總立になりて繪端書四拾萬枚を賣上る事に定りました。當日は招魂祭である故東京市內では上野、日比谷、九段招魂社等、人出の多い三ケ所を選んで賣る事に可決いたしました、其の繪葉書は石井拍亭氏筆「日本婦人」鏑木清方氏筆「小女と櫻」河村淸雄氏筆「素盞鳴命」三宅克巳氏筆「富士山」の四種類であります。

只に東京に於てのみ是を賣捌くのでなく、幾分かは地方に於ても援助を願ひ度く、先づ其の手始に、小崎千代子夫人が九州に四月下旬行かるゝを幸澤山持行かるゝ事となりました。讀者諸姉のうちにも此葉書を賣つて此擧を御助け下さる御方があれば是非女子青年會本部に御申込を願ひます。倚先頃より本部にあて慰問事業の爲御寄附ありし左の支部の諸姉に厚く御禮を申上ます。

| | |
|---|---|
| 東洋英和女學校女子青年會 | 金拾圓也 |
| 遺愛女學校女子青年會 | 金五圓也 |
| 安藤坂女子青年會寄宿舍 | 金五圓也 |
| 納戶町女子青年會寄宿舍 | 金四圓也 |
| 福岡女學校女子青年會 | 金四圓也 |
| 弘前女學校女子青年會 | 金貳圓也 |
| 神戶女學院女子青年會 | 金拾圓也 |
| 同志社女學校女子青年會 | 金五圓也 |
| 合計 | 金四拾五圓也 |

# 都より故郷の友へ

野阪貞

清子樣、御變りもありませんか。目まぐるしいやうな都の中に絶えず張詰めた心地で働いてゐる私は讀書や瞑想に耽りながら、靜かに落着きのある生活を送つていらつしやるあなたが、お羨ましくまたお懷かしく思はれてなりません。もう此頃あなたのお部屋の肘掛窓の下を流れる小川は、岸の山吹でさだめし美しく彩られて居りませう、更け行く春の夜にあのお部屋で、蛙の遠鳴きを聞きながら語り明したのも昨日のやうに思はれますのに、ふたゝび春はめぐつて參りました。

清子樣私は上京當時の手紙で申しました通り、私は何となく都會の壓迫を感じて、どうかすると故鄕の空のみなつかしく、まるで子供が見知らぬ世界に一人殘されたやうな心地でしたが、もう近頃は都會の氣分にも大分親しみが出來て參りまして、どうにか都會の氣分に調和して行けるやうになりました。

花の雲に包まれた都の春は、流石に私のやうな者の心までも動かして、上野、向島、飛鳥山へと花に憧がれて行くその群に交つて、一日を過して見度いと思ふ事もございます。上野の花は大方散りましたけれども、まだ八重櫻が殘りの色香を誇つてゐますそれに電氣博覽會や竹の臺の陳列館、美術協會展覽會などがありますので、人々は吸ひ寄せられるやうに上野へ上野へと集まつてまゐります。

とりわけ今年は田舍から出る團體が多くて、お揃ひの徽章を胸にかけた老若男女や地方の學校生徒の修學旅行、新學期に入つた學生の上京などによつてたゞさへ動搖する春の都は、なほ一層どよめき渡つて居ります。人の波は花の下陰ばかりでなく、三越白木、松坂屋と云つたやうな大商店にも押し寄せてその混雜する事と申しましたら、全く火事場へでも行つたやうな心地がいたします。そして高價な道具

や呉服類がどし〳〵賣れて行くさうであります。
かうした人々を見ると、歐洲戰亂などとはあまり關係のない人々のやうに泰平の春に醉ひながら、浮調子な生活を續けてゐるやうな心地がいたしますけれども、それは表面の觀察であらうと思ひます。このごろの動揺しつゝある氣分の中には、張切つた眞面目な一面をも認めないわけに行きません。近い例で申せば、婦人であつても社會に獨立して十分に活動出來るやうな能力を養つて置く爲に、進んで高等の敎育を受けようとする婦人の多くなつた事は、どの女學校でも著しく認めてゐる事でございます。或る學校の校長の談によれば、今日の女學生は一般に態度が眞面目で、女學校の卒業證書を單に嫁入道具のやうに心得てゐて、成績なんかどうだつてよいから、卒業さへ出來れば滿足すると云ふやうなのが少なくなりまして、此頃では何物か掴み得なければ女學校を卒業した甲斐もないといふ風に考へる女學生が多く、從つて勉强の仕方も眞面目なので敎へる方でも張合ひがあるといふのを聞いた事があります。總べての女學生がさうでなくても、一部分の人にでもかういふ氣分の漲つてゐるのは喜ばしい事だと思ひます。ですから知識階級の婦人はだん〳〵緊張した氣分を持つて、前途に横はる社會問題や家庭問題などに付て考へるやうになるので、又ある主婦達は日毎に迫つて來る生活難と戰ひながら、日常生活の改良、家庭の廓清等と眞面目な叫びをあげてゐます
かういふ風に眞面目な人々は益々眞面目になつて行くに引きかへて、ある一面の人々は自己の前途に如何な問題の起りつゝあるかをも考へないで、己の欲望のまゝに物質の豊かなのに任せて、止まる所も知らないやうな奢侈に流れて行かうとしてゐます。これは都會ばかりではなく、田舍にも一體にその傾きがあると思ひますが、戰爭の爲に一時に物質を得た人々の中には、夢のやうな榮華に耽つて、知らず〳〵のうちに墮落の淵に沈んで行く人も多いと思ひます。かういふ人々が今少し精神的方面に心を傾け

るやうになれば、社會改良の爲にもどんなにか有益だと思ひますのに、益々これに遠ざかつてゆくのは眞に嘆かはしい事ではありませんか。

清子様、こんな時はなほさら、私共若い婦人の身は、行くべき道を深く考へて歩まなければならないのでございますね。何でも確りとした信念ある婦人となつて、自分の頭腦で以つて世の中の事も總べて明りと判斷出來なければ、この先き世間が複雜になればなるほど、私共の目前にはいろ〳〵な困難な問題が出て參るでせう。それだのに今日の若い女は、意志があまりに弱く、よからぬ風潮に染み易いやうな人も多いと思ひます。

また田舍の人でも純なだけに世の惡風潮に染まり易いのでございますから、貴女のやうに學校を卒業なすつてからお家で讀書に日を過していらつしやるお方は、村の光りとなつて私共の愛する故郷の人々をお導き下さるやうに祈つて止みません。

清子様、都の花だよりを差上げようと思つたのに筆が思はぬ方に辷つて、變な理窟になつてしまひました。何卒御宥し下さい。

時々は仕事のあひまにいろ〳〵な事を思ひますがね、刺激のあまりに、多い渦きの中へ心を引き入れられてしまひますので、眞實に落着いて物を考へる隙がありません。私は靜かな祈りの時と瞑想の時を求める爲に、新緑の頃に一寸歸り度いと思つて居ります。人々の種々な思ひをのせて暮れて行く春の氣分のやうに、私の心も絶えず動搖を感じます。

青々とわか草伸ぶる野にいでゝ
　夏ちかき日の風を見にけり
つゝじの花黄に色褪せて新緑の
　うすくらがりに眠れる如し
こゝろ今わかしとわれをはげましぬ
　新樹の色にみちびかれつゝ

（蕪園集より）

# 少女欄

## 他人の手紙

河井道子

人の物を盗ないし、僞を云はぬなら、其で正直ですと思ふて居る方が多い樣です。なる程此等は勿論然に相違ありません。私は其等よりも進んで居る正直と申ことを御話し致し度いのです。

寄宿舍などによくありがちな事の一ッは、他人へ來た端書や手紙を見ることです。何も盜むのでもないでしよう、惡い積ではないでしようが、此は實に恐るべき罪であります、若し先生や舍監先生が、不思議に思はれる手紙が生徒に來た時は、御覽なさる權利は元よりあります、今其を申のではありません生徒同志が御互の手紙を許可なくして讀むとは、品物を盜むのと少しも違ひません、是はよく大きくなりました人も犯す罪であります。自分へ來たのでない書狀は、假令自分と同封で參りましても是を讀むのは不正直であります。よく耳にすることは、同室の人が「一寸御めでとう、新調い御召が來るってね」とか、明日は何々樣へ御招ねかれで嬉しいでしようなど丶、自分のまだ知らぬ事を云ふので、什麽して其がわかるかと思ふと、端書の來たのを先に讀まれたり、机上に置いた手紙を讀まれたりするのであると申ことです。別に惡い事でないと思ふ人もありましようが、他人の手紙の內容は勿論、其差出人の名さへも、許可なしに讀むものではありません。西洋では是をする人を金を盜む人と同樣に取扱ひます。女は兎角好奇心に富でゐますから、人の秘密を知りたがるので、よく注意しないと不知うちに罪を犯します。もし爰に大至急の端書が友人に來ましても、

其人が留守である場合には端書であるならば、誰かと相談して、其を讀み、受取人が留守であるとか返事してやる事もあります、しかし手紙で封がしてある場合ならば、それはしてなりません。況て机上にあるのや、抽出にあるのは視るべきではありません。或時、先生が一本の手紙を出し「おはるさん、これをお夏さんに渡して下さい」と御頼みになつた時にお春さんは何の考へもなく其差出人の名を讀み大聲で「お夏さん貴女の處へ何々さんから手紙が來ましたよ」と叫びましたのを先生が聞かれ、お春さんをお呼びになり「今私はあなたに手紙をお夏さんに渡して下さいと申ただけです、何も何處から來たかを御讀みなさいと申たのではありません、あなたは不正直な兒です」と御叱りなさいました。



慰問デーに贈る繪はがき

手紙の他には人の手帳を許可なくしてよむことも同じく惡い事です。惡い事が書いてなく、却て良い事がかいてあるにしても、他人のものを盗見することは罪であります。斯る事をする人は必ず他人の衣服など一寸見たくなり、默て行李や簞笥を明けてみて、澤山あつて美ましいとか、僅でよいとか、品物がよいのわるいのと許し自分の虚榮心を養ひ終に奥深い罪を重るやうにならぬとも限りません。小事に正しい者は大事にも正直いとのことを忘れずに、先人の手紙を大切にすること、盗よみなどする事のないやうに女子青年會の方々は正直な者になりましようではありませんか。

# 玉子と祈り

菊枝

少女方は何事でも、困る時に神様にお祈りをなさいますが、只困る時だけでなく、嬉しい時にも神様にお禮を云ふ事が大事であります。けれど又どうしたらよいかと思ふ時、一生懸命にお願ひすると、きつと助けて下さいますから、その信仰をおもちなさい

或小さな學校に親切な西洋の先生がありまして、生徒に働く事を敎へ、又働いて得たお金を、敎會に出す様に少さな生徒を訓練して下さいました。其一つの方法は、毎朝生徒が一人宛、この先生の朝飯を拵へる事であります。お梅さんは十三才で大層臆病な娘でした。この人は先生の御飯を拵へる事が、大變苦しくて何時も自分の番が廻つて來る事をつらがつて居りました。それは第一この先生が毎朝玉子を召し上りますので、其の玉子を割つて黄味を毀さないで燒くのであります、處がお梅さんは手が不器用である上に、ビク／＼しますから、生玉子を割れません、殻をグチャ／＼に毀して、小さい破片を白味の中に混ぜたり、さもなければ指を玉子の中に突込んで、黄味を毀したり、何時でも上手に割れた事がないのです、お梅さんはどうしてよいか心配でなりません、或る時、自分の當番の朝、お臺所に行つて、玉子を割る前に、神様にお祈りをしました。

「神様どうぞ、玉子を上手に割らして下さい、何時も胸がドキ／＼して指を突込んだり、破片を澤山入れたりして、先生のお好きな様に出來ません、どうぞ私と一緒にお出で下さいまして、今日は玉子を上手に割らして下さい、そして先生に、よい朝飯を差し上げる様にして下さい、神様は何でも聽いて下さいますと信仰致します、エス様に由つてお願ひ致します。アーメン」と斯う云つて料理をしました處が玉子もよく割れ、お茶も上手に出來て、先生がお喜びなさつたさうです、これがお梅さんが初めて祈りを

した經驗で、これから後には、どんな事でも神様にお願してする信仰的な婦人になりました。私共も少さな事でも、神様にお願ひしてすればきつとよく出來る事と思ひます。

# 澄子の手紙

野邊地天馬

春の日はどこまで長閑なのでせう、海を見ても山を眺めても、恍惚として身も心も大きな自然の中に融けて了ひさうです。

柏岳を後にして横濱に出た澄子は、山手にある學校の寄宿舍の窓にもたれて、油のやうな海の上をゆるやかに行き交ふ汽船をながめ乍ら、長く〳〵たなびく煙の大空に消ゆる夫れまでも珍らしげに眺めるのでした。

さうして何時とはなしに故郷のことを考へました何しろ來てまだ幾日も經たないのですから、學校の様子もわからず、それに心も半分郷里に殘つてゐる様な氣がして、學課も碌に手につきません。

時々、夕飯のあとに、暮れゆく春の海を眺めながらお父さんやお母さんのこと兄弟のこと、仲よしの春子さんのことなど、それから夫と考へて、思はず熱い涙をこぼす事もありました。

ある土曜日でした。澄子は手早くお掃除やお洗濯をすませて、春子さんに手紙を書きはじめました、何から書いていゝか解りません、あれも是れもと思ひますから、幾度も書きなほしました、そして漸く

「お別れしてからモー二週間になります、けれどもまだ家に居るやうな氣持がいたします、そしてオヤさうでない私は遠い〳〵此地に來てゐるのだと思へば急に悲しくなります。

まだ此所には親しいお友達もありません、春子さんと御一しよだつたら私どんなに心强いだろうと思ひます。

ねえ春子さん、あなたは今頃どうしてゐらつしやいますか、だん／＼お忙しくなるでせう、御丈夫ですか、お母さんや二郎さん方もお達者ですか、モー瓢山の櫻も咲いたでせう、さう、あの山吹の蔭で隱んぼを致しましたつけね。

オヤ途ひこんな事を書いて了ひました、それよりも、あなたは此方の樣子をお知りになりたいでせうね、この學校は高臺にあるんですよ。大層見晴しがよいんですの、そして私の室からよう く海が見えます、暇さへあれば見てゐます。

國には海がないので、海を知らない人が澤山ありますから、皆さんに見せてあげたく思ひます、持つて往けるものなら夏休みのお土産にしたいのですが。

學校はね、信者の人が大勢で毎日「さんびか」の聲が絶えません、時々聖書の講義もありますし、寄宿舍には毎朝家拜が御座います。

私も毎朝出席いたしますが、まだ人樣の前でお祈することが出來ません、「さんびか」だけはあんなに好きでしたから、大きな聲して歌ひます。

横濱の市街はまだよく見ません、一二度チヨツト外出したつきりです、今日も午後から室長と一しよに出かけるつもりです。

それから明晩から三晩つゞいて特別說教會があります、そして說教なさる方は東京からお見えになるんですと、その樣子は次のおたよりにいたしませう、あなたもお手紙下さいね、ぜひね、ドウゾ左樣なら」

春子は野良仕事から、日の暮れ方戻つて家に這いりますと、自分に宛てた手紙が來てゐる、無論澄子さんからと思ひました、外によこす人もないので。先達は葉書の着狀でしたが、今度のはお手紙、春子は喜んで胸をおどらせながら封を切りました。そして讀みながら限りない想像を集めてゐます。

「春や、澄子さんから何といつて來たの？」

とお母さんに聞かれて漸く目をあげました、春子は

「え〻お變りがないんですつて、……あとで緩くり讀んでお聞かせしませうよ」
と言ひながら、夕飯のお手傳ひいたしました。
そして薄暗いランプの下で弟や妹の世話をしながらお母さんと一しよに御飯をすませ、子供たちを寢かしてから、先刻の手紙を讀みました。
お母さんも大層興味を持つて聞きました。
「ハッハッハ……海をお土産にとは面白いな」
と笑つたかと思ふと又
「やつぱりお家が戀しいんだろうさねえ」
といつたりして、いろ〳〵考へてゐました、春子は尚ほ更らのこと、見たこともない横濱、その高臺に、ある學校のあたりを想像して懷しさに絶えませんでした。
お母さんは春子の心を察し
「ねえ、お前も澄子さんのやうに横濱に往きたいだろうねえ」
と同情して言ひましたが、春子はそれには答へないで默つてゐましたが、涙がこみ上げて胸が塞がる樣でした。
五六日經つてまた澄子さんからお手紙がまゐりました、それはまた至つて短く
「春子さん、三晩の說敎會がホントに宜しうご坐いました、これは私の生涯にとつて忘れることの出來ないお集りでした。
神樣の御榮があらはれ、主エスの御力によつて、私の心は新らしくなりました、私は罪から救はれ筆にも言葉にも盡せない喜びに滿ちてゐます、委しい事は追つて申上げませう、サヨーナラ」
春子は讀むには讀みましたが、何のことやら薩張わかりません、あんまり唐突でそして妙ですから、澄子さんはドウしたのでせうと思ひました。

彙報

# 東京青年會

（一）復活祭記事　地に足つけて時空の束縛の中に身を置く私共も、想像の翼をかつて時間を超越し、自由の世界に心ゆくばかり遊ぶことができる。さればこそ私共は年毎に新たな復活祭を迎へて二千年の昔に歸ることができるのです。曆の中に定められた時日に一週間先だつたとてそれが何でせう。

曇りがちな廿三日の午後の光の中に集つた皆樣のお顔は、主イエスの御受難を思ふ嚴肅な悲哀と、更生の悦びを壽ぐ晴れやかな笑とに何ともいへぬ程聖く輝いて居りました。

すつきりした加藤先生の開會を宣するお聲が堂内に顫へました。宮本とし子樣のピアノが一しきり私共を夢の世界に誘ひ、ひきつゞいて神村さんと田代さんとの「夜は更け渡りぬ」の合唱や、ミス、クロフォードの獨唱や、「ハレルヤ、ハレルヤ」の合唱の中に、私共の心もゲッセマネに泣き、十字架上に苦しみ、終に天使の聲と共に御國に目醒める樣に感ぜられました。

星野光多先生の溫容と、靈感に充された說敎はかうした私共の胸を强く打ちました。理論を超越し度い。駁論に答へんが爲に暫らくでも甦り給うたイエスの御許を去り度くない。――亂れがちな私共の心も今日は自分に歸つて、主の御墓の側で曙の光の中にイエスを仰いだマグダラのマリアの心を抱きながら、再び市街の雜踏の中を拔けて家路に急ぎました

（大橋房子記す）

（二）女學生歡迎親睦會　四月十三日土曜日午後二時會館で開きました、雨天でしたが凡百五十名餘の姉妹等が集はれました、廣間正面には歡迎と大書した二字が山吹の靑葉にて飾られてありました、渡邊百合子幹事の歡迎の辭があつてから靑年會々歌の練習がありました、餘興の第一は初めて上京の女學生が旅行者之友係員の案内をうけて無事寄宿舍に着き

たる樣、第二は白の割烹服を着たる姉妹等がミス、パタソンより新式の料理を實習する處、第三は本會英語科の生徒が途中或西洋婦人より質問をうけたる時流調の英語を以て返答したる事、第四は體操科の生徒が初めは姿勢惡しく歩調荒々しくきがミス、ファンダーの御骨折りで立派な日本婦人になられたる樣等靑年會事業を見事に現はしたるもの等あり、茶菓を共にしてより共同遊戲一二をなし居たるに初めて出席されし姉妹等も暖き交りをなし四時過ぎ歸途につきました。

**(三)工女慰安會**　四月十日午後一時より王子町東洋紡績會社娯樂室で開きました、其所では毎月四度工女に休を與ふる規定です、丁度十日は其日故是非來て何か集會をせよとの依賴をうけましたのを幸に、御話の野邊地天馬先生、讃美歌應援に四五名の姉妹等にミス、カフマン、加藤高子等と共に雨天中を御出張願ひました、初めに讃美歌の稽古次に野邊地天馬先生の繪畵引照の舊約物語がありました、實に面白くて四十分の間少しも動かず伺ひましたのには驚きました、前に習ふた歌を一同でうたひ集りを終へました、今度共同遊戲をと思ひましたが千三百名の工女等ではとても出來ず或一部の小供等のみで遊びました、實に第一回としては盛會にて感謝して居ります。

**(四)讃美禮拜**　四月廿一日(日)午後二時より開催、神田寄宿舍有志者の御謙力でした、今回の新歸朝者玉井あや子女史の在米中の所感につきて御話がありました、出席者は五十名餘でした、新らしい御顏も澤山見えました。

**(五)會員募集運動報告**　四月十六日(火)午後より報告會を開きました、各方面に御活動下さいましたので又色々面白い經驗話もありました、其の時まで報告のあつたのは特別會員六十六名、維持會員九十名及年額寄附約束者五名程出來ました、まだ／＼よい報告を期して待つて居ります。

## 消息

○宗像正子　二月女子分娩、淑子と命名せさる

○手東靜子　三月末男子御分娩

○廣岡夫人　上京四月廿三日横濱女子青年會の爲御講演

○佐々木ため子　今回大阪女子青年會幹事として就職

○井口かつ子　神戸女學院出身大阪女子青年會事務員として就職

○黒田治子姉母堂　追々快方に向はる

○新渡戸靜鶴子（のぶ）　横濱女子青年會に轉任

○堀順子　本部事務員として四月就職

○須藤米吉氏　須藤八重子姉の夫君なる同氏は三月中旬永眠さる。御病床にあらせらるゝ刀自の一日も早く御全快遊ばされん事を祈る

○一柳まき子　昨年十一月歸朝されし女史は四月廿日出帆再び渡米さる

○ミス、エマソン　四月廿日出帆歸米

○新渡戸夫人　五月七日出帆歸米の豫定

○ミス、ペーヂ　同上

○田丸よね子　女子青年會の下に東京王子に働かるゝ爲上京

○寺内ぶん子　三輪田高等女學校に轉任

○國井あや子　數年米國に留學され目下東洋英和女學校に在留

○高橋久與子　春休中四國より上京直ちに歸國

○陶山百合子　研究の爲上京中

○井深やえ子　同志社卒業後長崎高等女學校に赴任

○松　圓　姉　同志社女子青年會幼年部に熱心なりし同氏は今回女子英學塾に入學されたり

○横山きち子　東海道小山紡績會社病院内に看護者として熱心なる同氏は病氣の爲數日間在京されしが復職されたり

○伊集院ひで子　桑港女子青年會幹事たりし同氏は目下東京市本郷區駒込林町百七十七に御住居

○ミス、デントン　四月廿日一ヶ年の保養の後元氣よく横濱に到着ありて直ちに同志社に赴かる

○ミス、クロホード　今回大阪女子青年會に赴任しミス、エマソンの後任となり四月廿二日出京

○青木姉　有田玉子氏に代り神田寄宿の舍監となられたり

○比嘉秀子　暫時神田寄宿舍を監督されし同氏は目下府下雜司谷七三七田口方に御精養中

○花島ゆき子　納戸町女子青年會寄宿舍にありし同氏は卒業後靜岡に歸鄕され同市英和女學校の裁縫助手とならる

○髙澤美穗　深川中村高等女學校に赴任さる

○ミス、マシウ　大阪女子青年會援助の爲殆んど四月全部を該地にて過ごせり

○何井道子　大阪女子青年會大會の爲四月下旬同市に赴く

○寄附金

寄附金會友會費雜誌代及び萬國女子青年會本部負擔金領收報告(本部)

金貳拾圓也　東洋英和女學校女子青年會
金拾五圓也　婦人傳道會社
金拾圓也　横濱女子青年會
金五圓也　同志社女學校女子青年會
（右日本女子青年會本部事業負擔金）

金拾五圓也　青山英
（右萬國女子青年會本部事業負擔金）

○會　費

金壹圓也
岡田　つる（大正七ノ三―八ノ二）　三島　つな（大五七ノ四―八ノ三）
丹羽　梅子（大正七ノ二―八ノ一）　石塚　忍（大正七ノ十一―八ノ十）
伊藤　うん（大正七ノ一―七ノ十二）　ドーデー）大正七ノ三―八ノ二）
堀部クニエ（大正七ノ四―八ノ三）　植野すが子（大正七ノ三―八ノ二）
守永　すゞ（大正七ノ十一―八ノ十）　一條まさ江（大正七ノ四―八ノ三）
小野　小松（大正七ノ四―八ノ三）　平井由香子（大正七ノ四―八ノ三）
ペドレー（大正七ノ四―八ノ三）
金壹圓貳拾錢也　守屋　正子（大正七ノ十一―八ノ十）
金貳圓也
コールマン（大正六ノ十一―七ノ十）　ワード（大正六ノ十一―七ノ十）
青山　英　大正七ノ四―八ノ三）　モルガン（大正七ノ三―八ノ二）
ウエルボーン（大正六ノ十―七ノ九）　ローランド（大正七ノ六―八ノ五）
イムホッフ（大正六ノ五―七ノ四）　トラット（大正七ノ四―八ノ三）
プール（大正六ノ十―七ノ九）　マクアロピン（大正六ノ五―七ノ四）
ペッカム（大正六ノ一―六ノ十二）
金貳圓九拾壹錢也　エーカック（大正七ノ九―八ノ八）
金參圓也　小高　ツヤ（大正七ノ四―八ノ三）
金五圓也
横川とよの（大正七ノ六―八ノ五）　ツール（大正七ノ一―七ノ十二）
プレストン（大正六ノ十二―七ノ十一）　アンドリュス（大正八ノ四―九ノ三）
シャフナー（大正七ノ六―八ノ五）　マクラオド（大正八ノ四―九ノ三）

○雜誌代

金六拾錢也　佐藤とみえ（大正七ノ五―九ノ四マデ分ニ加ヘラル）
金八拾錢也
上野　くめ（大正七ノ三―八ノ二）　佐藤サダチ（大正七ノ三―八ノ二）
豚　福子（大正七ノ一―七ノ十二）　鈴木　松子（大正七ノ四―八ノ三）
上野　民治（大正七ノ三―八ノ二）　阿部　エイ（大正六ノ四―七ノ三）
山口　いち（大正七ノ一―七ノ十二）　大平みさほ（大正七ノ九―八ノ八）
小澄とよの（大正七ノ三―八ノ二）　福岡女學校（大正七ノ四―八ノ三）
本多　かず（大正七ノ四―八ノ三）　中須　德子（大正七ノ三―八ノ二）
芹澤　浩（大正七ノ五―八ノ四）　岡村いせの（大正七ノ四―八ノ三）
金八拾八錢也　福崎　のぶ（大正七ノ四―八ノ三）
金壹圓貳拾錢也
瀬上　恒子（大正八ノ三―九ノ二）　中須　喜勢（大正七ノ三―八ノ二）
瀬藤　あさ（大正七ノ一―七ノ十二）
金壹圓八拾錢也　佐藤　富惠（大正七ノ五―九ノ七）
金貳圓也　栗米　よし（大正七ノ一―七ノ十二）
金貳圓貳拾四錢也　青山女學院女子青年會（大正六ノ十二―七ノ四、七部代）
金四圓七拾貳錢也　横濱女子青年會（大正七ノ二、五十九部代）
金五圓拾貳錢也　廣島女學校女子青年會（大正七ノ一―二、廿二部代）
金五圓五拾代貳錢也　宮城女學校女子青年會（大正七ノ二、廿二部代）
金五圓六拾錢也　傳道女學校女子青年會（大正七ノ四―八ノ三、廿七部代）
金八圓五拾錢也　廣島女學校女子青年會（大正七ノ一、二、三、七部代）
金拾六圓也　ヘール（大正六ノ七―七ノ六）（會費及大正七ノ三、雜誌代）
金四圓七拾貳錢也　横濱女子青年會（大正七ノ三、五十九部代）
金五圓五拾貳錢也　共立女學校女子青年會（大正七ノ一―三）

「女子青年界」定價及廣告料

定價（郵稅）

| | 内地 | 海外 |
|---|---|---|
| 一部 | 金八錢 | 金拾壹錢 |
| 一年前金 | 金八拾錢 | 金壹圓貳拾錢 |

廣告料

| 一回掲載 | |
|---|---|
| 一行 | 金五拾錢 |
| 四分一頁 | 金五圓 |
| 半頁 | 九圓 |
| 全頁 | 金拾五圓 |

年極又は回數により割引有

大正七年四月廿八日印刷納本
大正七年五月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會　電話本局五九八番　振替東京一三七二三番
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻川和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　右同所　三成舍

the meeting one hundred of the younger girls remained to play games. This meeting seemed to be a great success and we hope it may be repeated often in the future.

On the 13th of April a partly for new students entering the Tokyo schools was held and one hundred and fifty girls attended. Dialogues representing the work of the association were a feature of the entertainment.

In the recent attempt to get special and sustaining members for the National and Tokyo association fifty-five, Yen 10, members were secured and eighty-two, Yen 3 members, and in addition to this several annual pledges were made. It was decided to continue this campaign through the month of May. A reception is planned for these new members on the afternoon of April 23rd.

More girls than ever applied to enter the Y. W. C. A. dormitories during the last few weeks, and we are increasingly feeling the need of more accommodations for girls. More girls than could fill another dormitory were turned away because of a lack of space. Nine girls, who were taking examinations for the various schools in Tokyo, have been accommodated in the Kanda building during the last few weeks. These were in addition to the regular dormitory girls and every social room in the building has been utilized for this purpose.

## YOKOHAMA ASSOCIATION.

Miss Foll, who came to the Yokohama Association in February of last year to help out in an emergency, left us on April 1st. During her stay in Yokohama she has befriended many young women travelling alone in Japan, and has also made a pleasant place for missionaries stopping for a short time in the port city. We regret that the boarding department for foreigners has had to be closed, but it has become necessary to take over the entire third floor bf association purposes, and it is now being used for a dormitory for the emigration department and for classes. Miss Baker and Miss Allchin have moved to 1297 Minami Ota-machi.

There has been an increasing demand for a sewing class under the instruction of a Christian teacher and surrounded by Christian influence, and to meet this demand such a class was begun on April 15th. This class will meet every day from nine to four o'clock. In addition to this class in sewing, classes in English, Music, Gymnastics and Bible were begun.

On April 8th an informal tea was given in honor of Miss Clarissa Spencer, World's Secretary of the Young Women's Christian Association. Miss Spencer recently returned fom Russia, and spoke briefly on conditions in Russia, especially of the Association work in Petrograd. After spending a short time in China Miss Spencer will return to America, sailing on May 9th from Yokohama on the Shinyo Maru.

Miss Sada Suzuki, who has been office secretary for the past two years, has resigned, and Miss Kiku Sato is helping out temporarily until the arrival of Miss Kuroda. Miss Kuroda's mother is improving, and we hope that Miss Kuroda may be able to come to us real soon.

A large meeting was held in Memorial Hall April 23rd; speakers, Mr. Ebina, Madame Hirooka, and Mr. Kurushima. A report of this meeting will be made in our next issue.

The annual concert will be given May 11th, and an unusually fine program is being prepared.

## OSAKA ASSOCIATION.

The past winter of beginnings in Osaka has been difficult in the matter of finding a house in which to begin work. Houses are seemingly impossible to find. This past seven months has been spent in four different houses. We now have a place permanent for at least a year at 280 Higashi Umeda-cho, Kita-ku, very near the Umeda Station. In spite of the difficulty of finding a place in which to work, such is the readiness of response on the part of the girls of Osaka, that already a hundred or more girls are connected with the new Association in some way.

Mrs. T. Sasaki, who is a graduate of the Joshi Gakuin, Tokyo and the daughter of the well known Dr. Ishigami of Hamadera, Osaka has become Osaka General Secretary, and Miss I. Katsu, a graduate of Kobe College, has become the business secretary.

# THE YOUNG WOMEN OF JAPAN
## (JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XV — MAY, 1918 — NUMBER 5

The regular meeting of the National Committee will be held at the National headquarters, 14 Kita Jimbo-cho, Kanda, Saturday, May 11th at 2 p.m.

The following program will be interesting to our readers:

Kobe College Y. W. C. A.

| | |
|---|---|
| President: | Hanae Masui. |
| Vice President: | Katsuko Iguchi. |
| Secretary: | Midori Takenouchi. |
| Treasurer: | Umeko Uoki. |

Topics and Leaders 1918:

Jan. 15. The Grace of Thoughtfulness. Matt. 25:40......Suma Asada.
20. What will real friendship do? 1 Sam. 20:1,23.... Sakae Matsubara.
29. How Christ stills the storms of life? Ps. 107:23-31.. Nami Emoto.
Feb. 1. Missionary Meeting.
3. Christ a Servant and we are servants. Phil. 2:3-11..H. Masui.
12. How to worship in spirit and in truth. Ps. 100:1-5.. M. Matsuda.
17. The Power of His Resurrection. Rom. 6:3-13...... Miss C. B. Deforrest.
26. The Physical Life of a Christian. 1 Cor. 3:16-17..Ine Hori.
Mar. 3. Pure Thoughts, Pure Words, Pure Deeds. Phil. 4:3.. Katsuko Iguchi.
12. Serving in our rooms. Rom. 12:9-18......Chiyo Takegawa.
17. Senior Farewell ..........................Kiku Miyajima.

We are very grateful to Mr. Hampei Nagao for the gift of a typewriter to be used in teaching typewriting to Japanese girls, who are coming to us for preparation for the business world.

Miss Mary Denton, a member of the National Committee, returned from America on April 20th, going directly to her post of duty in the Doshisha. She will be our main support in establishing our Kyoto branch.

Dr. Hart, Head of the English Department of Wellesley College, and Dr. Jane Shirzer, ex-President of Oxford College, Oxford, Ohio, were among our guests this month, and they, in company with Miss Kawai, had a very pleasant visit with the Japanese Minister of Education. These two friends leave on the 28th for a month's visit in China, after which they will return to America.

Miss Nobu Hori, a graduate of Aoyama Girls' School, and formerly a teacher in Iai Jo Gakko, Hakodate, has become National Office Secretary vice Mrs. Suzuko Nitobe, who has taken the position of Office Secretary in the Yokohama Association.

### TOKYO ASSOCIATION.

Our President Mrs. Inazo Nitobe, leaves May 7th on the Shinyo Maru for a year's visit in America. We shall miss her very much, but are delighted that she is to have a year with her family.

Miss Mary Page, for the past two year's our efficient General Secretary, leaves May 7th for America. Miss Page is to have a much needed and well earned rest, and we regret that she is not to return to us when she comes back from America. As previously announced she becomes General Secretary of the Kyoto Association, and our loss is Kyoto's gain. Miss Page expects to stop at Honolulu on her way home to arouse interest in the Japanese work of the Honolulu Y. W. C. A.

At the invitation of the factory authorities a meeting was held at the Toyo Boseki Kaisha at Oji on April 10th, and more than 1300 girls employed in the factory attended. They practiced hymns and Mr. Nobechi gave them a Bible talk with chart illustrations. After

# FURS
## D. KOMEYA
**PROP. C YAMAOKA,**
(TANNER)

**Furs, Coats, Stoles, Muffs Brocade Linings, Slippers, Feathers, and Water-color pictures.**

No. 14, Benten-dori, Itchome, Yokohama.
*Tel. 3370.*

**PICTURE DEPT.**
No. 4, Benten-dori, Itchome, Yokohama.

**BRANCH:**
*Tel. Shimbashi 2179.*
No. 1, Minamikinroku-cho, Kyobashi, Near Shimbashi, Tokyo.

**MAIN STORE-NIKKO**
***Summer Branch Karuizawa***

貴婦人令孃用
毛皮コート 襟巻 マフ スリッパー 羽毛
絹裏地 水彩畫類 其他毛皮製品種々

何れも最新流行形いろ〱取揃へてありますから多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品であります、御注文も御好みに依り入念調製いたします、



横濱市辨天通一丁目十四番地
コメヤ號 山岡商店
電話三三七〇番

東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號 山岡商店
電話新橋二一七九

夏期出張所
信州輕井澤

---

# MARUICHIYA
***Manufacturer & Dealer in Silk Goods, Paper Goods, Stationery Calendars.***

**All kinds of cards and fancygoods.**

Whole sale and retail

Mail orders executed promptly.

*No. 8, 9, Bentendori, Itchome, YOKOHAMA*

PHONE. No. 4751

美術雜貨製造卸小賣
## 丸一屋
横濱辨天通一丁目八、九番地
電話四七五一番

---

EVERYTHING PHOTOGRAPHY

EXPERT KODAK FINISHER
## S. MIKADO PHOTO CO
29, Unemecho Kyobashiku
TOKYO JAPAN.
Tel No. 2272. Shimbashi

寫眞器械材料販賣
出寫併寫眞一般應需
## 美門商會
東京市京橋區采女町
廿九番地歌舞伎座前
電話新橋二二七二番
振替東京一九四九四番

後付二

御用の節は女子青年界の廣告で見たと御申添下さい

# 腸内の病原菌を死滅せしむる唯一の

# 整腸常備藥

# ラクトスターゼ

長壽保命の要素と稱せられたる乳酸菌の製劑たる本品は腸内に繁殖する各種の病原菌を死滅せしむる作用あるのみならず、腸内の腐敗醱酵を制止し、下痢便秘等を豫防治癒せしむる効顯著なる爲め總ての腸疾患小兒の消化不良等に對し整腸藥として賞用せられつゝあり。

傳染病研究所に於て目黒氏の實驗報告に據ればコレラ菌は二分間、チフス菌赤痢菌は十分間に乳酸菌培養基にて死滅することを證せられたり。

▲粉末錠劑の二種あり、各地藥舗に販賣す、實驗報告あり贈呈す。

# 脚氣に賞用せらるゝ

# オリザニン

本邦蛋白化學の泰斗鈴木博士創製の本品は貴重なる新營養劑にして、白米食に因する營養不給殊に脚氣樣症狀に賞用せらる鈴木博士其他の實驗報告を綜合するに食品中本劑の成分を缺除せんか漸次營養不良となり遂に斃死する事實を動物試驗に依り實證せられたり。

故にオリザニンは營養劑として脚氣、小兒の營養不給、食慾不振、産前産後及病中病後等の營養劑として好適する事を確證せらる。

▲液劑百瓦入、越幾斯劑四十五瓦入の二種あり

▲實驗報告書御申越次第贈呈す

東京室町

三共株式會社

女子青年界第拾五卷第五號（每月一回一日發行）
大正七年四月廿八日印刷納本 大正七年五月一日發行 明治卅七年九月七日第三種郵便物認可

